

予報第 2 号(6 月)

農推第 1506 号
平成 27 年 5 月 29 日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について次のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予報第 2 号(6 月)

農作物名	病害虫名	予想発生量
水稲	いもち病	□～○
	縞葉枯病	□～○
	イネミズゾウムシ	□
	ニカメイガ	△
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)	□
	イネアオムシ(フタオビコヤガ)	□～△
ぶどう(デラウエア)	べと病	□～△
	灰色かび病	□

	クワゴマダラヒトリ	□
	フタテンヒメヨコバイ	□
みかん	黒点病	□
	そうか病	□
	コナジラミ類	□
	ミカンハダニ	□
もも	せん孔細菌病	□~○
いちじく	アザミウマ類	□
果樹類	果樹カメムシ類	○
なす	すすかび病	□~△
	灰色かび病	□~△
	うどんこ病	□~○
	ミナミキイロアザミウマ	□~△
トマト	葉かび病・すすかび病	□
	灰色かび病	□
非結球あぶらな科葉菜類(大阪しろな、こまつな等)	コナガ類	□
きく	黒斑病・褐斑病	□
	白さび病	□
野菜類 花き類	アブラムシ類	□
	ミカンキイロアザミウマ	□
	シロイチモジヨトウ	□
	ハモグリバエ類	△
	オオタバコガ	○
	コナジラミ類	△
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

5月気象予報(気象庁5月28日発表。1ヶ月予報)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

A 水稲

【いもち病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

- (1)昨年度は葉いもち及び、穂いもちの発生とも平年よりやや多かった。
- (2)向こう1ヶ月の天候は気温はやや高く、日照時間もやや多いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)育苗箱において発生した場合、その箱の苗は本田に移植しない。
- (2)田植後の余り苗を水田に放置しない。
- (3)発生が予想される場合は、田植前に箱施用剤を処理する。
- (4)密植をしない。

[メモ]

- (1)日照不足、多雨で発病が多くなる。
- (2)近隣府県において QoI 剤耐性菌の発生が報告されている。QoI 剤の使用は1作1回 にとどめる。

QoI 剤成分例:アゾキシストロビン(アミスター)、メトミノストロビン(イモチエース、オリブライト)、オリサストロビン(嵐)等

【縞葉枯病】(ヒメビウンカ)

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

- (1)4月に行ったヒメビウンカの保毒虫率は府内平均6.4%で平年よりやや多かった。
- (2)5月の予察灯へのヒメビウンカの飛来は平年同様、見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)前年度発生があった地域あるいはその周辺地域では、田植前に箱施用

剤を処理する。

[メモ]

(1)ヒメトビウンカは縞葉枯病を媒介する。

(2)近年、西日本で増加傾向にある。

【イネミズゾウムシ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)昨年度の発生は平年並であった。

(2)1～2月の気温は平年並であったことから、越冬虫数は平年並と予想される。

(3)5月の予察灯への飛来は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)常発地では、田植前に箱施用剤を処理する。さらに発生が多い場合は、移植後の防除を行う。

【ニカメイガ】(第1世代幼虫)

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)昨年度のほ場での発生は平年同様ほとんど見られなかった。

(2)5月の予察灯、フェロモントラップへの飛来は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)箱施用剤を処理しない場合は、7月上中旬に防除を行う。

【ジャンボタニシ】(スクミリンゴガイ)

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)昨年度のほ場での発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)水深4cm以下の浅水管理とする。

(2)桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。

[メモ]

(1)田植後20日以内の苗が食害されるので、この時期の防除を徹底する。

【イネアオムシ】(フタオビコヤガ)

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

- (1)昨年度の発生はやや少なかった。
- (2)近年、府内中山間部を中心に局地的に多発している。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除を徹底する。

[メモ]

- (1)この虫の生育適温は25～27度。
- (2)多肥栽培は発生を助長する。
- (3)フィプロニルを含む箱施用剤の効果は低い。

B 果樹

1 ぶどう(デラウェア)

【べと病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

- (1)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。
- (2)6月の気温は平年よりやや高く、降水量は平年並と予測されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

[メモ]

- (1)5月～10月にかけて、降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。

【灰色かび病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2)6月の降水量は平年並と予測されている。

[メモ]

- (1)ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。
- (2)かん水や薬剤散布は午前中に行い、夜間の湿度が上がらないようにする。

【クワゴマダラヒトリ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

【フタテンヒメヨコバイ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

2 みかん

【黒点病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)昨年度の発生は平年よりやや多かった。

(2)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

(3)6月の降水量は、平年並と予測されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)枯枝が多く残っているところでは伝染源となるので、速やかに枯枝を除去する。

[メモ]

(1)この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

[メモ]

(1)伝染源となる越冬病斑は除去する。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一系統薬剤の連用を避ける。

3 もも

【せん孔細菌病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)今年は平年より、早くから発生が見られた。

(2)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)多発すると防除が困難となるので、早期防除を心掛ける。

(2)強い風雨後の発生に十分注意する。

4 いちじく

【アザミウマ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)青色粘着トラップによる誘殺虫数は平年並であった。

[メモ]

(1)例年6月上中旬に発生のピークを迎える。

5 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップによる誘殺虫数はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)果樹をよく加害するカメムシは、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種である。

(2)もも、うめ、かきなどの果樹類を加害する。多発生した場合は、みかんやぶどうを加害することもある。

[メモ]

(1)園地によって発生量に大きな差がある。

C 野菜

1 なす

【灰色かび病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなすの巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう整枝を工夫する。

(2)果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。

(3)同一系統薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)灰色かび病は、低温多湿条件下で発生が多くなる。

【すすかび病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなすの巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)病葉は早めに摘除し、ハウス外に持ち出し処分する。

(2)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には、葉の裏にもかかるようにていねいに薬剤散布を行う。

(3)QoI 剤(アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤(アフエット、カンタ

ス、シグナム)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

(4)同一系統薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)すすかび病は多湿条件下や草勢が低下したときに発生が多くなる。

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなすの巡回調査では、泉州地域の一部ほ場で、発生は平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

(4)QoI 剤(アミスター、ストロビー)、SDHI 剤(アフェット)は、薬剤耐性菌を生じ

やすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなすの巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)果実や葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(3)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

[メモ]

(1)同一系統薬剤として、ネオニコチイド系(スタークル・アルバリン、アクタラ、ダントツなど)、マクロライド系(アファーム、アグリメック)、スピノシン系(スピノエース、ディアナなど)、その他(モベント)などがある。

2 トマト

【灰色かび病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)ハウストマトの5月下旬の巡回調査では、発生は一部ほ場でやや目立ったが、全般的には平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう整枝を工夫する。

(2)果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。

(3)同一系統薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)灰色かび病は、低温多湿条件下で発生が多くなる。

【葉かび病・すすかび病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)ハウストマトの5月下旬の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。

(2)下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。

(3)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には直ちに防除を行う。

(4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

3 非結球あぶらな科葉菜類(大阪しろな、こまつな等)

【コナガ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップ、予察灯へは、本年は平年より早く4月中旬から連続して誘殺されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期に防除を行う。

D 花き

1 きく

【黒斑病・褐斑病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並からやや多かった。

(2)向こう1ヶ月の降水量は、平年並と予測されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

[メモ]

(1)降雨が多いと発生が多い。

【白さび病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年と同様ほとんど見られなかった。

E 野菜・花き類

【アブラムシ類】【ウイルス病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月下旬の巡回調査では、発生は全般的には平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ウイルス病を媒介するアブラムシ類は、少発生時の防除を徹底する。

(2)施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。

(3)ほ場周辺の除草に努める。

(4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ウイルス病に感染していない無病苗を確保する。

(6)ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。

[メモ]

(1)アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月下旬の露地水なすの巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかにほ場から持ち出し処分する。

(2)きくでは膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。

[メモ]

(1)ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどは、作物を加害するだけでなくウイルス病(TSWV)を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップでの5月下旬の誘殺虫数は、平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)の防除を徹底する。

(2)黄色灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月下旬の巡回調査では、一部のほ場でわずかに見られたが、全般的にはほとんど見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害葉、残さはほ場から持ち出し処分する。

(2)しゅんぎくや大阪しろな等の軟弱野菜では、収穫後に地表面をビニール被覆し、太陽熱により土中の蛹を殺すことで、次作の被害を軽減できる(4~10月の間可能)。

【オオタバコガ】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップでの5月の誘殺虫数は、各地で平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害のあった果実や新芽は早急に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合以下)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(3)黄色灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなす巡回調査ではハウス、露地ともに発生は平年よりやや少なかった。

トマトハウスの黄色粘着トラップの誘殺虫数は、平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除に努める。
- (2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。
- (3)施設では、開口部を寒冷しゃで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (5)ほ場周辺の除草にも努める。

[メモ]

- (1)タバココナジラミは、作物を加害するだけでなくウイルス病(TYLCV)を媒介する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/mailemail/mailmailservice/mailservicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約30件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室推進グループ

おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑(現在、工事中)

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.or.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)